

## 令和元年度第2回「生徒による授業アンケート」(3 学年)の集計結果等について (報告)

本校の教育活動につきましては、日頃ご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび「生徒による授業アンケート」を実施し、貴重なデータを得ることができました。その集計結果を受け、各教科で分析するとともに授業改善への手立てを検討し、研究授業を実施するなど授業の質を今まで以上に高める取組を進めています。

ついては、各教科における集計分析結果及び授業改善への取組の概要をご覧ください、ご質問、ご意見等、お気づきの点がありましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

[問合せ先 副校長 (046)241-8001]

## 1 アンケートの実施日

令和元12月20日 (金)

## 2 各教科の集計分析・授業改善 (概略)

国語	集計分析	現代文Bでは、「意欲的に取り組んでいる」で肯定的な回答が多かった。また、「予習・復習をしている」等で否定的回答が多く見られた。家庭学習の習慣を身につけさせるため宿題を定期的に課すことを計画していきたい。 古典Bは、概ね肯定的な回答が多かったが、「予習・復習をしている」で否定的回答が多くなっている。古典単語の定着を図るため、反復練習をさせる宿題を課すことで生徒自らのやる気を出させる工夫をしていく必要がある。 古典講読では「予習・復習をしている」の項目で1 学期よりも否定的な回答が増えてしまった。授業時にやる気をださせる工夫が必要である。
	授業改善	現代文Bでは、家庭学習用の課題を出すなどして授業理解の補助を行い、読解の力をつけさせていきたい。 古典Bでは、古文単語の課題を出すことや文法事項の予習を行うなどを検討していく。 古典講読では「予習・復習」の項目で否定的な回答が多かったので、予習復習が授業内でできるように展開し、その都度課題を提示したい。
地歴・公民	集計分析	日本史A以外では、「授業のあり方について」の各項目で肯定的回答が8割以上を占めている。1 学期と比較すると、「他者の考えを知る機会」、「考えをまとめたりする場面」の肯定的回答が増加した。「学習の状況について」の項目では、1 学期に引き続き「予習・復習をしている」の否定的回答がやや多かった。 日本史Aでは、2 学期になってから理解や意欲に関する項目で否定的回答が増加した。生徒が考える時間を設けたり、生徒に身近な例で説明するなど、生徒が興味・関心を持って取り組めるような工夫が必要である。
	授業改善	自分の考えをまとめ、それを他者に伝える機会をこれまで以上に増やしていく。また、課題を課すなどして、予習復習をする習慣を身に付けさせ、授業内容をより理解できるよう指導を工夫する。 日本史Aでは、導入で授業内容や目的を明確に伝え、生徒が内容を把握したうえで授業を進めるようにする。また、落ち着いた状態で学習できる環境づくりに努め、興味・関心を持たせるため生徒が想像しやすい・考えやすい問いを示すようにし、授業に対する参加意欲を高めさせるよう工夫する。
数学	集計分析	数学Ⅲと発展数学は理系の科目で、全体的な肯定的回答が80%以上となっており、1 学期と比較して10ポイント以上あがっていることから、授業改善は出来ていると考えられる。しかし、学習内容が多く専門性が高いという点から、生徒主体に授業を展開したり、生徒自らが分かるようにする意識が低くなりがちなので、その点を引き続き工夫することが課題である。
	授業改善	理解度の差を埋めるための個別指導や課題プリント、生徒が積極的に発言できる雰囲気づくりは改善傾向にあるため、引き続き行っていく。時期的にも授業に対する意欲、自ら分かるようにする意識が低くなりがちになるところを、いかに高めていくかの工夫をしていく必要がある。基本が理解できていないと全体的にわからなくなり、意欲低下に直結するため、基本をしっかりとして固めていくことから行っていきたい。

令和元年度第2回「生徒による授業アンケート」（3学年）の集計結果等について（報告）

理科	集計分析	<p>物理では、1学期に比べ「理解度に合わせた授業」については肯定的な回答が、「予習・復習をしている」では否定的な回答が増えており、「身についたことを実感できた」はほぼ同じであった。</p> <p>化学では、1学期と比べて各項目で肯定的回答が増加している。基本的な内容に絞って授業を展開したことが関係していると思われる。ただし、「自分の考えを深めることができた」などの深い学びや高次の学びに関する項目では、やや肯定的回答が減少している。</p> <p>生物でも、授業のあり方、学習の状況ともに肯定的回答が増加している。特に、「考えをまとめたりする場面」、「自分の考えを深めることができた」で増加している。</p>
	授業改善	<p>物理では、電磁気に入り内容がより難しく、分量も増えたが、1時間当たり概ねプリント1枚の調べ学習中心で余裕を持たせたことがよかったようだ。一方、自分の進路に直接必要のない生徒も増え、家庭学習をする姿勢をつくれなかった。今後、課題提示の仕方など工夫していきたい。</p> <p>化学では、平易な内容を押さえつつ、新たな課題に取り組みせるにあたり、すでに学習した内容を活用できるような教材を考えていく必要がある。</p> <p>生物では、少人数ということもあり、主体的・対話的な学びを実践することができている。基礎学力を定着させ、既習事項を関連づけて理解できるようにしていきたい。</p>
保健体育	集計分析	<p>体育においては、1学期の結果とほぼ同じで、多くの項目において80%以上の生徒が肯定的回答であり、高い満足度を得ていることがわかる。全体的に取り組み状況が良好であるため、引き続き、生徒の発達段階に合わせたきめ細かい指導を行いたい。また、予習、復習が難しい教科ではあるが、チャレンジしていきたい。</p>
	授業改善	<p>自分が学びたい球技種目を選択する授業であるため、多数の生徒が積極的、かつ前向きに取り組んでいる。しかし、全ての生徒が自分の希望通りに選択できることは、施設の関係で不可能であり、その現状を緩和するために授業改善、向上に努めていきたい。また、「予習・復習をしている」では肯定的回答が他に比べ低いが、改善の方向に進んでいる。健康の保持増進や生涯スポーツという観点から、授業以外でも運動に取り組むような働きかけを積極的に行っていきたい。</p>
英語	集計分析	<p>コミュニケーション英語Ⅲでは、「他者の考えを知る機会」、「意欲的に取り組んでいる」の項目で多くの肯定的回答を得た。各生徒がそれぞれの進路にむけてこれまで通り授業に集中して取り組むことができていると考えられる。また、1学期の調査に比べ「予習・復習をしている」の項目で肯定的回答が10%以上増えた。</p> <p>英語表現Ⅱでは、「取り組みやすい授業」、「身についたことを実感できた」で比較的肯定的回答を多く得た。しかしながら、1学期の結果と比較すると、全体的に否定的回答が増加している。生徒それぞれが、予習・復習をする意識が低く、今後の大きな課題である。</p> <p>発展英文読解では、取り組みや意欲に対し、還元できていない現状が回答状況からも分析できる。生徒の実情や取り組みの一つひとつを大切に真摯に向き合い、彼らの意欲に応えられるような授業をしていく必要がある。</p>
	授業改善	<p>コミュニケーション英語Ⅲでは、「学んだことを関連付けて理解できた」の項目で肯定的回答が少なかった。単に知識を教えるだけでなく、生徒に身近なことに関連させて理解を促していきたい。</p> <p>英語表現Ⅱでは、3学期はティームティーチングを行い改善に努めていく。</p> <p>発展英文読解では、生徒の実情や取り組みに真摯に向き合い、彼らの意欲に応えられるようペースを把握して授業を進めていく。また、授業中のそれぞれのタイミングで何をすべきなのかや、ポイントを丁寧に話しながら授業を展開していく必要がある。</p>
情報	集計分析	<p>「授業のあり方について」では、概ね70%の生徒から肯定的な回答が得られた。授業内容が1学期の文書作成中心から、表計算ソフト中心に変わっており、取り組みやすさを感じる生徒が減ることも予測されたが、肯定的回答の減少はごくわずかであった。</p>
	授業改善	<p>「理解度に合わせた授業」の肯定的な回答は65%程度で比較的に低い。生徒が課題に取り組み、完成するまでの時間には個人差があり、ペース配分やリズムなど、より丁寧な授業を心がけていく必要がある。3学期は、個人で調べて発表するという授業形態になるので、話し合いや発表する機会が増えさらに改善できると思われる。</p>